様式第4号

令和７年度の教育活動に対する学校評価表【静岡スクーリング会場 】

キラリ高等学校　2025.2.7

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制	記載者	教頭　岩ケ谷佐知子

A：よくできた　B：だいたいできた　C：不十分だった　D：ほとんどできなかった

	今年度の重点目標（学校経営目標）	具体的取り組み計画	自己評価	成果と課題	学校評価	学校関係者評価委員　意見
1	静岡県で最初に認可された狭域通信制高校として様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。	① 基礎学力の確実な定着を図るため、各教科担当間のコミュニケーション量を増し情報共有をしたうえで、よりわかり安い授業を展開する。生徒・保護者面談を通し、主体的に学習に取り組めるように導く。 ② 学校内はもとより校外での生活指導も継続して実践・強化し、基本的な社会性・モラル・社会通念上の規範意識の徹底を図る。 ③ 遠足・修学旅行・文化祭などの特別活動や校外スクーリングをより充実させ、多くの生徒が積極的にかかわれるようにする。（全校での体育祭） ④ 進路選択において必要な基本的な知識・技能を育成し、進路決定を自ら推進できるよう導く。（外部機関・企業との連携）	A	①昨年度に引き続き授業プリント(試験対策)の共有を行い、互いに業務の効率化も図ることができた。 生徒へのアプローチが難しい家庭に面談を実施し、生徒が主体的に授業へ出席できるか検討できた。 通常授業に関して講師の先生と常に連携し、指導内容の改善、向上に取り組んだ。 担当教員の間で進度の共有を適宜行った。半期・年間を通した授業の展開を見据え、興味関心が沸くような授業に心掛けることができた。 ②校外でのボランティア活動を通して、他校の生徒や年配の方々とも積極的な交流ができた経験から、社会性・モラルを確率させることができた。 校内外における生活指導に積極的に取り組んでいるが、生活リズムの乱れや生徒指導の対象となる問題行動は数多く発生している。 事案発生後の対処はしっかり取り組めている。発生の抑制に対する有効な対策を模索中である。 校内外の見回りも積極的に行い、安全な学校生活が過ごせるようにした。 生徒情報を丁寧に扱い、一人ひとりに合わせた対応が概ねできた。 ③各教員が協力し合い、案内や告知を工夫し積極的な声掛けを行った。結果、多くの生徒がイベントに参加でき、概ね好評だった。 校外学習では人数が多すぎてしまい受け入れ先の選定が困難になることがあった。 総合的な探求の時間では、適切に業者を選択し、主に自己肯定感を高める内容から進路選択に繋がるよう、学年に応じた配慮をしつつ、外部の方の専門知識を学習できるように進めることが出来た。 チャリティーTシャツや募金も積極的に行い、社会貢献にも尽力した。 ④早期の面談により進路選択の意識を高めることができた。 生徒自身で進路決定できるよう、定期的に生徒の進路活動の状況を把握し、面接や小論文対策など細やかな指導を行うことができた。 総合的な探究の時間やガイダンス、呼びかけを通して十分な情報提供を行った。 進路課が中心となって、履歴書などの書類の事前指導等を行い、生徒も積極的に進路決定に動くことができた。 過去問や面接記録を共有し、活用することで進路指導の充実を図ることができた。	AB	・軽度知的があるが自由に勉強も高校生活も楽しみたいという、通常の高校と特別支援学校高等部しか選択肢がなくどちらも自分に合わないと感じ行き場がなかったグレーゾーンのこどもたちのセーフティネットの役割も果たしてくれていると感じます。 ・とてもよくやってくださってると思います。 ・就職活動についてハローワーク求人だけでなく、地元企業からの指定校求人がもらえる様になれると良いと思います。 ・昨年と比べると、進路のイベントの参加機会が減ってしまったように感じます。授業編成や、生徒人数によっても実施の方法を考える必要があるかと思いますので、ご提案させていただきます。 ・特別活動や校外学習、校外ボランティアなどに生徒を積極的に参加させ、社会性やモラルを養うカリキュラムが充実していると感じる。 ・基礎学力の定着の為、授業・レポートを工夫してくださっている事、行事などを多く設定する事で生徒が楽しみながら人と関われる環境を作ってくださる事などから、高校卒業後に自分でしっかりと歩いていけるよう働きがけてくださっていることがわかり良いと思いました。
2	生徒一人一人の個性を伸ばし、より細やかな指導を行う。	① 困難を有する多様な生徒（不登校傾向・問題行動・発達障害等）が積極的かつ充分な教育を受けられるように、学習に対する動機づけや学びの意欲を喚起できる教員の養成を行う。（スクールカウンセラーの活用） （テスト前勉強会等）（キラリカフェの充実・・保護者同志の連携共有） ② 個別対応、部活動、キャリア教育、インターンシップなどの分野に十分対応できる教員を育成する。また専門の機関・企業の協力も進める。 ③ 各校舎・教科単位で内部研修を実施し、キラリ高校の職員として共通の認識の上で、教職員の組織化を推進する。また、外部研修を活用して、多様な困難を有する生徒に対する支援強化を行い、各教職員の指導力・対応力を向上させる。（全体での教科研修の定例化） ④ 未履修・体学中の生徒やその保護者へのアプローチを継続して行い、再履修および復学を促す活動をする。家庭訪問の計画的実施を行う。	B	①スクールカウンセラーに助言をいただき、生徒がよりよい学校生活を送るための案を考えることができた 身体的な障害を抱える生徒をこれまで通り積極的に受け入れた。 障害があっても不利益なく学校生活を送ることができるよう、教員間で情報共有や相談をしつつ、柔軟な対応に力を入れた。 困難を有する生徒が増え、一人一人にきめ細やかな対応を行いたいが、時間が足りないと感じる。 各市の児童相談所と連携を取り、生徒への聞き取りをやフォローを積極的に行うことができた。 ②キャリア教育では外部(進路先）との連携が以前に比べ整ってきている。 企業とは進路課が中心となって定期的に連携をし、生徒の進路の充実に努めた。 インターンシップはほぼ実施できていない。 部活動バレー部は、他校とも練習試合を実施し、男女ともに全国大会の決勝トーナメントに出場できた。男子はベスト８だった。 部活動の存続については、通信制高校という特性や、優先度・モチベーションによっては、外部協力を得ることが難しい面もある。 個別対応をする中で自分では解決できない時は、他の職員を頼り助言を求めたり、他の機関に繋げ、解決に向かうことができた。 ③全体での授業研修や周りの先生方の授業を教科に関係なく積極的に見学し、授業力向上に努めることができた。 時間を確保しづらいため、外部研修にはあまり参加できていない。 職員会議は徐々に充実してきており、共通認識の形成に一定の効果が見られる。 生徒情報の管理を行い、情報を効率的かつ有効に活用し、日々情報を整理することができた。 ④学費納入が滞る家庭には適宜連絡を行い、必要に応じて面談や家庭訪問も実施し、生徒が通学できるよう努めた。 連絡等の働きかけはしていても、快方に向かうことができない家庭もあるのが現実。	AA	・ADHD、軽度知的、不登校気味な息子が学校が嫌じゃなくなったと言い、レポートをがんばっています。学習面で難しいことがわかっているので、一緒にレポートをやる補習をしてくれてやれています。 ・生徒数に対して、多いとは言えない先生の数で、丁寧に見てくださっていると思います。 ・通学に対して家庭との協力を募るのであれば、スケジュール等をもう少し明確化して欲しい。自分の子がいつ何時から学校なのかよく分かっていない。 ・先生方と生徒さんの距離が近いことで、のびのびと学ぶことができていたと感じました。 ・多様な生徒に対して少ない職員の皆様で対応するのはとても大変なのではと思うが、私の息子も含めよく声掛けし話をきき、やさしく対応してくださり素晴らしいと思う。 ・吉田本校以外の評定がBでしたが、過小評価だと思いました。(Aで良いと思います) 先生方へは、長女が在学中はとにかく生徒に寄り添ってくださり感謝しかありませんでした。 友達関係で少しでも問題があれば、必ず時間を作り話を聞き一緒に悩み考えてくださったり、不登校気味の生徒がいれば、なんとか関わりを作ろうとあらゆる方法を試してくださったそうです。 進路指導も熱心にしてくださってますが、大学や企業の話などを聞く機会などがあれば、卒業後に残念な結果になることが少なくなるのではないでしょうか。 授業以外の部分での仕事が多く、忙しく難しいところもあるかと思いますが、教員間の連携も取れているように感じ、担任だからということではなく、校舎ごとに職員全員で全員の生徒を見守り指導してくださる感じが素晴らしいと思います。 ・通信制という難しい環境でも生徒さんのことを考えてやっているよい学校だと思いました。
3	技能連携教育施設（スクーリング会場）のカリキュラム(コース）の改編を推進し、通学タイプの充実を図る。	① より多くの生徒が通学タイプの全日スタイルを選択しやすいように、コース内容の改編を図り、魅力あふれる内容の転換を目指す。 ② ①を推進するために、スクーリング会場ごとにコース担当を決め、会議を行い、コース内容の検討・充実化を図る。 ③ 他会場との連携および意見交換を積極的に行い、より綿密に個々の生徒へ対応する。また昨年来の課題であった授業研修を本格化させる。	B	①コース内容の再編が図られ、適宜改善できた。習熟度別でのクラス分けでミスマッチを軽減を図ることができた。 音楽芸術コースではNコン以外に三島や藤枝でのコンサートに参加をし、生徒の良い経験となった。 情報教育コースについては、昨年度から習熟度別を取り入れ、クラス分けをした効果が出ている。 今年度の検定実績では、７月１０月と受検者全員が合格できた。それぞれの目標達成に向けて着実に実力を伸ばしている。 コース内容自体は年々充実してきているものの、予算や専用施設の不足により、生徒に交通費の負担が生じてしまう面があった。 進学に活用できる能力の育成に加えて、ICTの活用や数学的活動の積極導入など、生徒が勉強の意義を見出せるような授業内容を考え実行できた。 キャリアアシストコースでは、駿府城ボランティアや自動車学校など校外でも活動した。 ボランティアでは積極的にコミュニケーションを取るなど普段の学校生活では見ることのできない様子を見ることができ、成長につながった。 ②コース担当を筆頭にコース内容の再検討・充実化を図った。出席率は課題である。 学習系のコースでは、新年度に習熟度別にクラスを分けるための教材の共有を行い、生徒にとって最適なクラス選択をさせることができた。 科目関係なしに定期的に職員室内で相談することができた。 エンジョイスポーツコースでは、モチベーション維持のため、ゴルフコースでの校外研修など、積極的にイベントを取り入れた。 ③他会場への協力や連携は積極的に行った。 コースによっては他会場との交流があり、生徒同士が充実した時間を共有できている。	AA	・ジョイスポーツコースで色々なスポーツを体験できるのが非常に魅力的だか、ゴルフ等の移動がかなり大変そう。 ・通学スタイルを進めていくにあたって、生徒さんへの情報提供ができる講演会を実施できないかとお話をいただきました。卒業後の進路をより豊かにするための取り組みとしてとても良いものだと感じています。 ・自分に合ったコースを選択することができ、無理なく通学できたと思う。 ・カリキュラムコースを、時代や生徒の望む環境に合わせて変更していく取り組みは良いと思います。興味を持てるコースであれば、通学する意欲にも繋がり卒業後の進路選択にも役立つのではないでしょうか。 ・今まで通りで良いと思います ・毎日学校に通うことはとてもよいことだと思います。 ・他の会場では様々なコースが用意されており、こどもたちの選択肢がひろがることを期待しています。 ・通学タイプの充実も大切ですが、いつまでも吉田校のウィークリーコースがなくならないことを願っています。
4	吉田本校の整備・拡充	① 定着しつつある、週３日の平日スクーリング（ウィークリースタイル）を継続して実施し、部活動、キャリアデザイン、インターンシップ、ボランティア等様々な活動を通じ高校生活の充実を図る。 ② 生徒の社会性を高めるために各種イベントを企画することで、様々なニーズに合わせた学校生活の充実を図る。	－		－	
5	ＩＣＴ教育及び校務システムの整備	① レポート（添削指導）のデジタル化への推進と改善。 ② 校務支援システムに関して、生徒増に対応すべくさらなる業務の効率化を図るため、システムの整備・拡充を図る。	C	①電子化により、学校外のどこでもレポートに取り組めるようになったことなど一定の成果を確認できている。 レポートのデジタル化を開始して2年目となり、職員は徐々に操作に慣れ、業務の効率化も進んでいる。 アクセスが集中する時間帯にサーバーへ接続しにくくなる問題等が依然として見られ、利便性の向上には課題が残っている。 ②現状の校務支援システムでは不十分なことが多いと感じる。 技能連携科目について出席などを入れようとしている段階で、改修作業までこれたのは成果である。今後実務面を整備する。 出席・レポート・生徒証などを一元的に管理・運営できる体制には至っておらず、利便性や効率性の向上を十分に実感できない。	AB	・スクーリング等でのレポート提出のおかげで家でも勉強に取り掛かるハードルが下がり自主的にやっている姿が見られました。 ・デジタル化が進むと、文字を書くことが少なくなってしまうと思うので、社会に出た時に困らないよう、文字を手で書く機会を持って欲しいと思います。 ・レポート提出の際のサーバダウンが多くあった様なので、そちらの改善をお願いします。 ・今後ますますインターネットが必要となってくると思いますが、紙媒体も合わせて、生徒さんの進路活動をよりよくするサポートができればと思っております。 ・サーバーへ接続しにくくなることはあるが、自分がらくな姿勢でいつでもレポートに取り組めるため、宿題をやりやすくなったと思う。 ・電子化でのレポート提出はまだまだスムーズにいかないようなので、引き続き改善に力を入れていただくようお願いします。 個人的には、紙に書くことでしか得ることが出来ないものもあると思うので、浜松校舎の美術のレポートでのデッサンなどの課題は無くさないという姿勢がとても嬉しかったです。